

2021年9月12日～9月18日 各家庭でのディポーション用テキスト

## ■疑いについての訓練 (3/3)

聖潔の喪失もまた、私たちを失望と疑いの暗やみの中に引きずり込む。バプテスマのヨハネの経験には、彼がヘロデの牢獄に入れられたのは不従順や罪のためであったということを示すものは何もない。しかし私たちは、人間としての経験において、不信仰の原因が道徳的なものにあることをしばしば見出す。私たちは神のみこころを知りながらも、やはり自分の道を歩みたいと願う。御霊が私たちの犯した罪を指摘しておられるのを感じながらも、なお罪が慕わしくてならない。私たちの心が暗くなるのは、心がかたくななためである。私たちは不従順であるゆえに疑う。そして、道徳的、肉体的、霊的な赤信号を無視して強引に突っ走り、自分のわがままと不従順のゆえに至高者なる方のあわれみに疑いを抱いている自分自身を見出すのである。私たちは、「自分のそむきの罪を隠す者は成功しない。それを告白して、それを捨てる者はあわれみを受ける」(箴言 28:13) ことを知りながら、罪を犯すゆえにつまずく。

疑いは、病気やからだの不調から来ることがあり、幸福が去ったという憂うつさからもたらされることもある。また、よきものが悪しきものからもたらされるはずはないと絶望することによって、あるいは自我を王位につけて救い主を覆い隠す不従順によって生ずるかもしれない。かつては主の救いのすばらしさを喜び、神のご臨在の陽光を楽しんだ。ところが今は、そのみことばを疑い、ご性格、忠実さ、大能、そして神のご人格までも疑うようになり、「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちは別の方を待つべきでしょうか」と言う。

このような疑いから再び信仰に戻る第一の段階は、自分の窮状を主イエスご自身にそのまま打ち明けることである。もし私たちの心の態度が正しければ、質問を發することは罪とはならない。主イエスご自身も、「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と質問された。しかしこれは不信仰からではなく、完全な信頼と服従の心からである。私たちはきっぱりと、自我と知っている罪に背を向け、弱さや倦怠感などを捨て、率直な気持ちで、やましくない心をもって主のみもとに行かなければならない。主はご自分の民を卑しめたり、故意に苦しめたりされることはない。主はいつも私たちの欠乏を知り、私たちをあわれんでおられる。主は私たちがみもとに行くこと、時機を得たあわれみを受けることを望んでおられる。ヨハネが

したと同じように、あなたの疑い、あなたの困難を、主のみもとに持って行きなさい。

第二の段階は、主が提示される証拠を信ずることである。主はヨハネに対して、ご自分のみわざとみことばについて言い送られた。またトマスに対しては、「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。……信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と言われた（ヨハネ 20：27）。主があなたに対してなされたことを信じ、また代々の他の人々になされたみわざを信じなさい。神のみことばは、代々の数々の試練のあらしにあって今もなお堅く立ち、痛烈な批判にあってても微動だにしないであろう。神のあわれみは朝ごとに新しく、そして永遠に続く。神の恵みは十分であり、神は決して裏切られない。神はその子らを試練にあわせられるが、彼らを誘惑して絶望に至らせなせることはない。銀を精練する者のように彼らの生涯のうちのかすを焼かれるが、彼ら自身を捨てられることはない。あなたを力づける神の御力を信じ、あなたを助けるための神のご臨在を信じ、あなたを保つための神の平安を信じ、あなたを顧みられる神のご摂理を信じなさい。

疑いの暗やみから信仰の喜びに戻る第三の段階は、神のみことばを信ずることである。「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです」（ローマ 10：17）。主イエスは誘惑者サタンの「あなたが神の子なら……」という一撃に対して、「と書いてある……と書いてある」と答えられた（参照マタイ 4：3-11）。神のみことばに立つこと、そのお約束を信ずること、たとい形勢が全く不利に見えるようなときにも堅く立って動かされず、恐れないうこと、あふれる恵みの神のご人格に対するござかしい計画的な批判には目もくれないこと—こうしたことは、主にあって堅く立つ自分自身を見出すことである。みことばに立脚したあなたの信仰を信じて疑わず、反対に、病気、失望、落胆、不従順から生ずる疑いを疑いなさい。疑いは麻痺させ、信仰は生かす。疑いは敗北に導き、信仰は勝利に導く。疑いは破壊し、信仰は生かす。試練を受け、神に信頼しているあなたのたましいに証拠がもたらされるとき、あなたはトマスのように、「私の主。私の神」と言うであろう。そして、「見ずに信じる」つまりかかない者に与えられる祝福にあずかることができるのである（ヨハネ 20：28、29）。

まじめな疑問は、神のみことばと信仰に直面させられるとき、心を訓練し、さらに深い献身と確信に導いてくれるのである。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第二十九章「疑いについての訓練」より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。